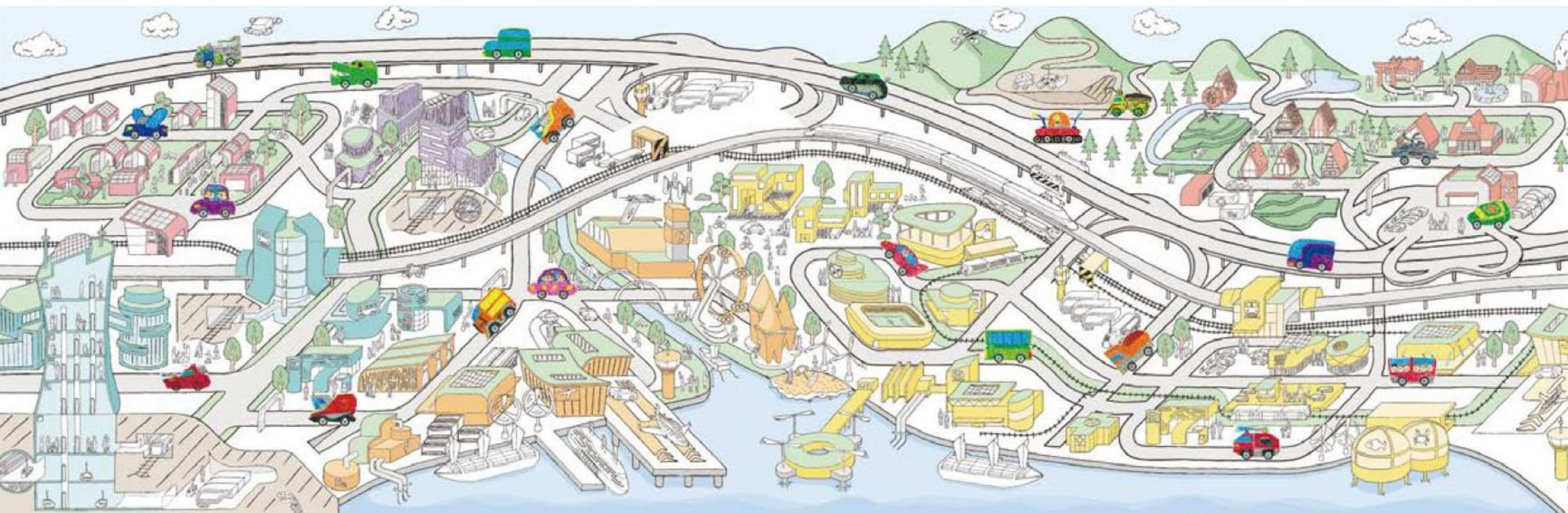


日野自動車株式会社

Corporate Profile

人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する



変化するお客様のニーズと社会の課題を的確に捉え、 新たな提案で持続可能な人流・物流を支え続ける

私たちは「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」という使命に基づき、1942年の設立以来、トラック・バスを通じてお客様と社会に価値を提供してきました。



近年、人流・物流を取り巻く環境は、大きく変化しています。eコマースの拡大などに伴い、お客様のビジネスは変化し、地球温暖化、重大交通事故、ドライバーをはじめとした労働力不足など、人流・物流にまつわる社会課題も深刻化・複雑化しています。こうしたお客様や社会の課題を解決すべく、これまでのトラック・バスの製造販売や保守整備を主体としたビジネスを基盤に、お客様に寄り添い積み重ねてきた実績と知見を生かして、私たちは新しい価値を創造していきます。

車両の稼働を最適化するソリューションや、人流・物流の新たなしくみの提案に至るまで、CASEを活用し、持続可能な次世代の「商用モビリティ」を提供することで、将来にわたってお客様や社会に必要とされ続ける存在を、目指してまいります。

特に、地球規模の課題である環境との共生に向けては、全産業が長期的な展望で動きを加速する中、日野も地球環境にやさしい人流・物流の実現に、積極的に取り組んでいます。電気自動車(BEV)や、燃料電池車(FCEV)などの車両の電動化だけでなく、車両ライフサイクル全体の観点から、「お客様・社会のお役に立つ」を起点にさまざまな提案をしてまいります。

この変革の時こそ「チームHINO」が一丸となり、トヨタグループおよび志を同じくする仲間と共に、一つ一つ課題に向き合い、挑戦し、お客様に寄り添って前進していきます。

日野自動車株式会社 代表取締役社長 CEO

小木曾 聡

トラック・バスの 安全・環境技術を追求

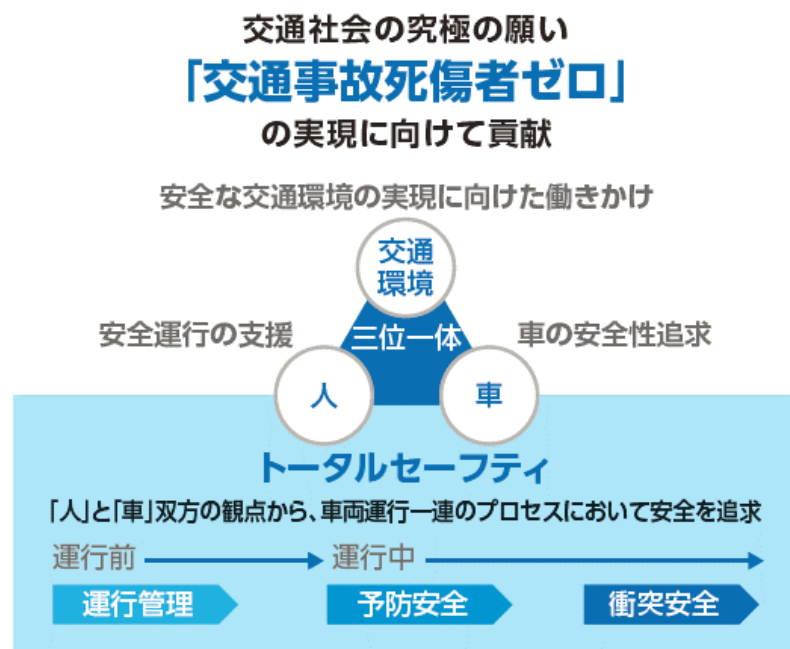
PCS*(Pre-Crash Safety / 衝突被害軽減ブレーキ)

ミリ波レーダーと画像センサーにより前方の車両や歩行者を検知し、自動でブレーキを作動させて衝突被害を軽減するシステム。日野は、トラックの全車種と大型観光バスに標準で装備しています。

*“PCS”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

「交通事故死傷者ゼロ」のために

「トラック・バスの交通事故死傷者ゼロ」の安全な社会の実現に向けて、日野は、多様な側面から安全性向上に努めています。「トータルセーフティ」の考えのもと、安全運転のための運行管理から、事故を起こさないための予防安全、もしもの時の衝突安全まで、それぞれの段階において安全性を高めるための取り組みを進めています。また、開発した安全技術を広く普及させることも重要と考え、実用化した技術をいち早く商品に搭載するとともに標準装備化を進めています。



すべての道路利用者を念頭に置き、あらゆる場面での安全技術を開発



※“PCS” “VSC”はトヨタ自動車(株)の登録商標です

環境にやさしい技術の追求

日野は、人、物の移動による環境負荷の少ない社会を目指し、1991年に世界初のハイブリッド市販車となる大型路線ハイブリッドバスを発売するなどの技術革新を進めてきました。

製造から廃棄までの車両ライフサイクル全体における、CO₂排出量の削減に取り組み、その大部分を占める車両使用時のCO₂排出量削減に向けて、電気自動車(BEV)・燃料電池車(FCEV)などの電動車開発をグローバルで加速していくことで、技術開発を通じて社会・お客様にとって持続可能な選択肢を追求してまいります。

- 大型燃料電池トラック(トヨタと共同で開発)



- 小型BEVトラック「日野デュトロ Z EV」



お客様のビジネスを支える 「トータルサポート」



故障車への応急処置を行う「ドクターデウトロ」は24時間体制でサポート

トラック・バスの稼働を全面的にサポート

日野は、お客様のもとでトラック・バスがしっかりと働き続け、その役割を全うできるようにきめ細かく支える「トータルサポート」を重視しています。お客様の仕事を止めないことが、社会のインフラである輸送・交通を支えることにつながり、日野が社会に提供できる重要な価値になると考えています。

適切な時期の部品交換などにより、故障を未然に防ぐ予防整備、万一の際の緊急対応や迅速な修理、より安全でエコな運行のためのサポートなど、あらゆる面においてお客様のビジネスに貢献していきます。



ICTを活用した「HINO-CONNECT」

お客様と日野をつなぐコミュニケーションツール「HINO-CONNECT」は、車両に搭載した通信端末を通じて、トラック・バスの正常な稼働を支えるためのサービスです。お客様専用のウェブサイトや各種通知機能を備え、万一のトラブル発生時にも適切・迅速に対応します。また、省燃費運転や安全運転のガイドとして活用いただけるレポートも提供しています。収集された車両情報を予防整備の提案に活かすなど、日常の運行から緊急時の対応まで、幅広くお客様の車両をサポートしています。



小型BEVトラック



スムーズに乗り換えができるバスターミナル

自動運転による隊列走行

人流・物流課題の解決



水素で走る路線バス

スマホで呼べるオンデマンドバス



移動式水素ステーション

荷物と車を集中管理する配送センター

人流・物流課題の解決

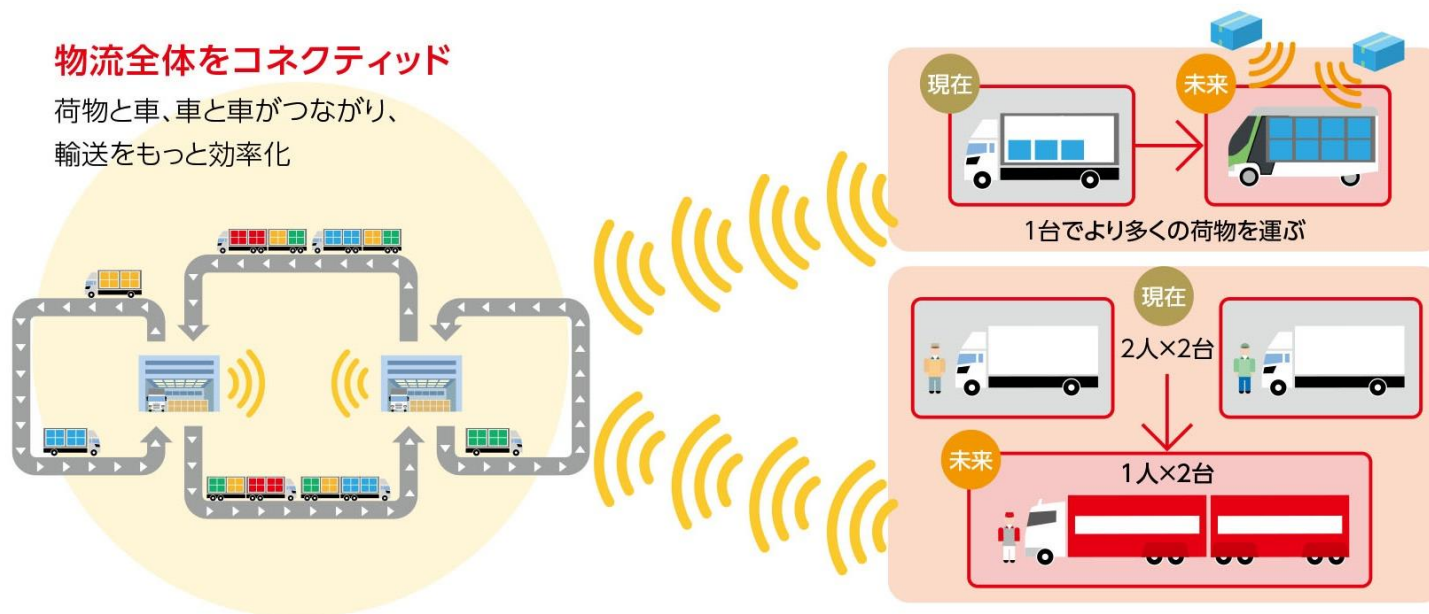
商用車を取り巻くニーズは多様化しています。

車の稼働率向上や物流の効率化、高齢化やeコマースの拡大によるドライバー不足、移動手段が不足する過疎地の問題など、車だけでなく物流や交通システム全体の課題に及んでいます。

日野は、物流や交通の未来像を見据えた新たなチャレンジによって、これらのニーズや課題に応え、もっと、豊かで住みよい世界と未来に貢献していきたいと考えています。

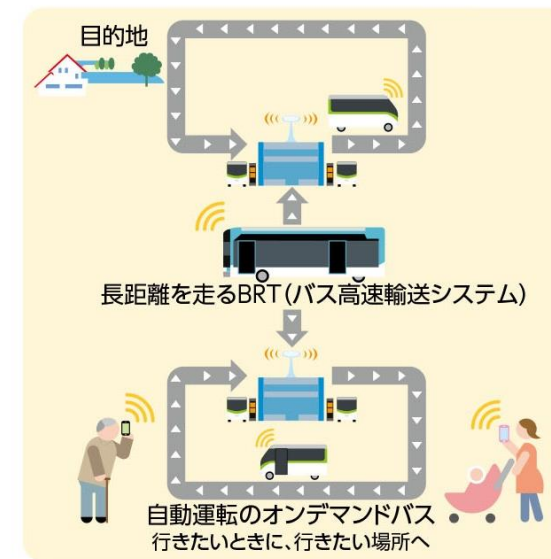
物流全体をコネクティッド

荷物と車、車と車がつながり、
輸送をもっと効率化



交通システムをコネクティッド

人と車がつながり、移動をもっと便利に



日野の「ものづくり」と「品質」

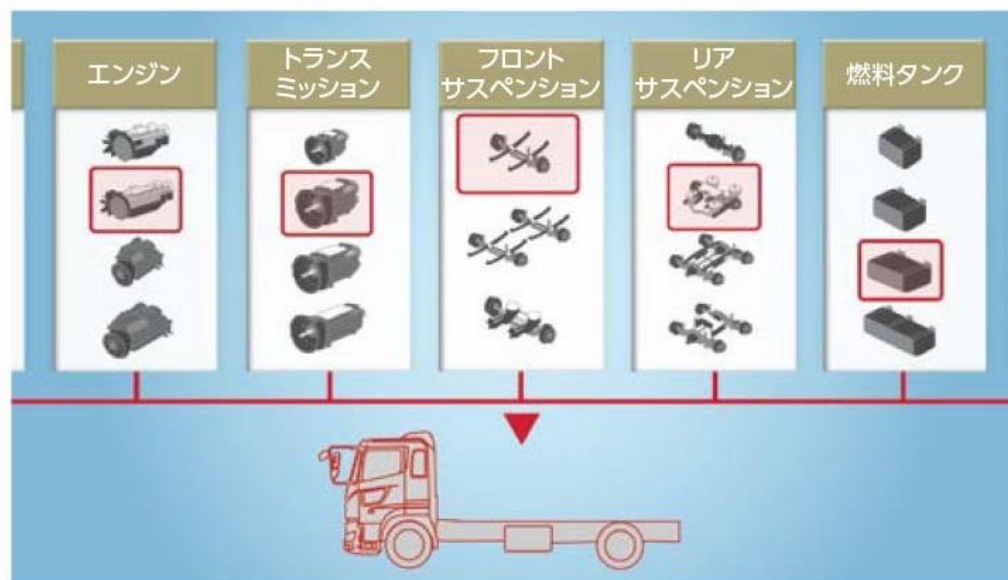


大中型車両生産のマザー工場となる、2017年に本格稼働した茨城県の古河工場

「モジュール化」でより早くニーズに対応

商用車は用途によって多種多様な車両の形態があり、お客様のニーズにきめ細かく対応した多品種のラインナップが求められます。日野は、さまざまなニーズに合った商品を、世界中のお客様へより早くお届けするために、車両を構成する部品＝モジュールをニーズに応じて組み合わせて1台のトラックをつくりあげる、「モジュール化」という考え方を取り入れています。

さらに、各モジュールの「コア」と呼ばれる共通部分である基幹部品を日本で集中的に生産し、各市場のニーズに応じた周辺の部品を海外で組み付けることで、いち早くお客様にお届けしています。



部品をニーズに応じて組み合わせる「モジュール化」

生産・供給体制の要「古河工場」

国内生産の中心となるのは、2017年に本格稼働した古河工場です。

古河工場は、「多品種少量である商用車を短いリードタイムで生産する」という日野の目指すものづくりを具現化するため、革新的な生産技術・生産ラインを積極的に導入し、量と種類の変動に対応したフレキシブルな生産体制を構築しています。大中型車両生産のマザー工場として、新技術や新工法を導入し、海外の車両工場に展開していく役割も担っていきます。

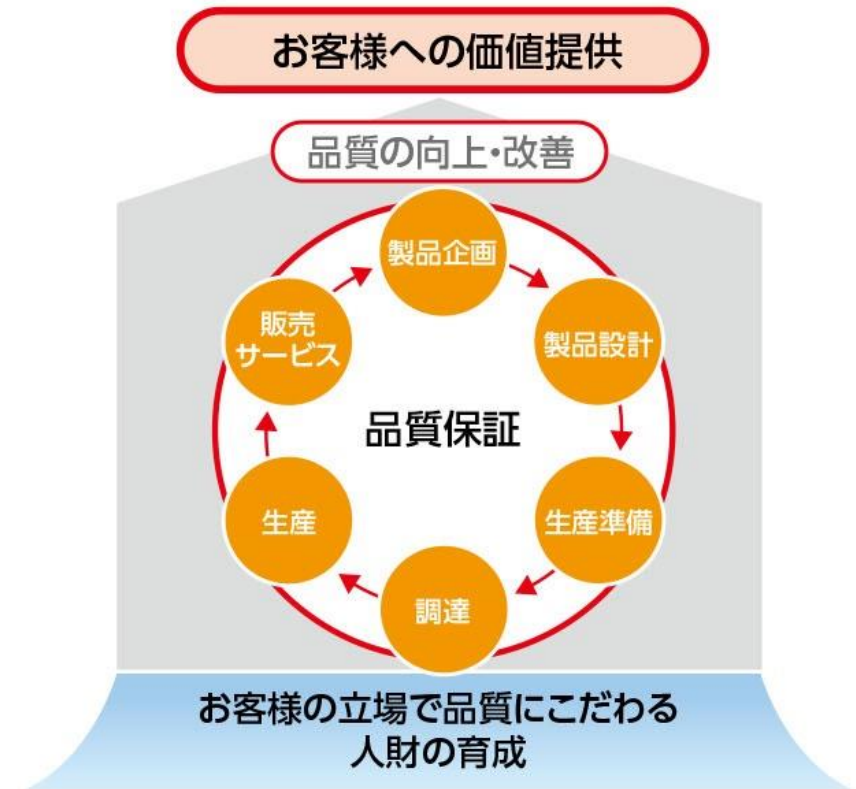


大中型トラック生産のマザー工場「古河工場」

お客様、社会の安心・安全のための「品質」

日野は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」ことを使命とし、お客様や社会に「安心・安全」と感じていただける、価値や品質を提供することが責任であると考えています。

お客様と社会から信頼いただけるトラック・バスメーカーであり続けるために、「安心・安全」の製品を提供できるよう製品の企画・設計、生産準備、調達、生産、販売・アフターサービスのすべてのプロセスにおいて、相互連携を図っています。また、さらなる業務改善のためにPDCAのサイクルを回し続け、品質の向上を図ることを品質保証マネジメントの基本としています。



グローバルに展開する「HINO」



北米向けボンネット型トラック「HINO600シリーズ」

90を超える国・地域で活躍する「HINO」車

日野は、東南アジアやオセアニアでもトップのシェアを争うほか、北米や中南米などの市場における事業も着実に成長させています。現地で組み立てるCKD生産を主とする一方、各国・地域に根ざした製造を目指して、部品の現地調達など生産の現地化を進めています。また、北米市場向けのボンネット型トラックや、鉱山などで使用される最大積載量35トンの重量物運搬専用トラックなど、世界各国・地域の多様なニーズに応える海外専用モデルを投入しています。「HINO」ブランド車は、日本ならではの「ものづくり」と、お客様のニーズにきめ細かく応える対応力で、世界中で高い評価を得ています。

- 世界中に広がるHINOの海外拠点とディストリビューター



- 重量物運搬用トラック「HINO700シリーズ ZS」



「トータルサポート」を世界中で強化

世界中で「HINO」の車が役割を十分に果たせるように、日野は各地に充実したサポート体制を構築して、日々お客様からのご要望やご相談にお応えしています。質の高い「トータルサポート」は「HINO」ブランドの強みであり、世界中のお客様からご支持をいただいています。

より一層「トータルサポート」の充実を図るため、マレーシアにお客様向け試乗・講習施設「Hino Total Support Customer Center」を開設、アラブ首長国連邦に中近東研修センターおよび中東部品デポを設置、パナマに中南米サービス支援拠点を設置するなど、世界中で着実に体制を整えています。



アラブ首長国連邦の中東部品デポ

パナマの中南米サービス支援拠点



マレーシアのお客様向け試乗・講習施設
「Hino Total Support Customer Center」



アラブ首長国連邦の中近東研修センター



「チームHINO」と「人づくり」

「チームHINO」の一体感を醸成し、持続可能な成長を目指す

日野の強みはチーム力です。世界中のチームHINOがひとつになって「HINO」ブランドの価値を高め、次の世代に引き継いでいくことで、持続可能な成長を目指しています。

トラック・バスを開発する人、製造する人、販売する人、トータルサポートを提供する人が一体となり連携することで、お客様や社会の期待を上回る商品・サービスを提供し続けるとともに、「世界一過酷なラリー」といわれるダカールラリーに参戦し、チャレンジスピリットと技術力を磨いています。また、ラグビーや卓球を通じて地域社会に貢献し、チームHINOの一体感の醸成と企業活動の活性化を図っています。



世界大会

販売部門の海外事業体やパートナーが参加する「日野世界大会(Hino World Conference)」を4年に一度開催。将来ビジョンの共有を図り、情報交換を行っています。



ダカールラリーへの参戦

1991年に日本のトラックメーカーとして初めてダカールラリーに参戦。初参戦以来連続完走を果たし、世界中のお客様やモータースポーツファンと感動を分かち合っています。



ラグビー部「日野レッドドルフィンズ」

1950年の創部以来、当社のフラッグシップスポーツクラブとして活動。より地域に密着し、地域の方々に愛されるラグビー部を目指しています。



卓球部「日野キングフィッシャーズ」

日本リーグに加盟する強化指定クラブ。全日本実業団選手権など全国レベルの大会で活躍。卓球を通じて地域社会に貢献するとともに、観る人すべてに感動や勇気を与えられるチームを目指しています。

「ものづくり」を通じて、自己の成長を図る

日野は各職場単位で技能訓練、集合研修、日々の実作業による人財育成を行うとともに、全社・グループを横断した認定制度やイベントを実施。「ものづくり」を通じて自己の成長が実感できるしくみを構築しています。



社内技能等級認定制度・全社技能交流会

各職場で必要な技能の習得を浸透させるため、社内技能等級認定制度を導入。習得した技能を競い合う全社技能交流会を毎年開催しています。



日野工業高等学園

日野が運営する企業内訓練校。卒業後は本人の適性を考慮したうえで各部門に正式配属されます。



サービスマスターコース

次世代の国内販売会社を担う中核人財育成プログラム。約1年間の研修で、サービスエンジニアに求められる幅広いスキルを学びます。



全国販売会社サービス技術コンクール

全国の販売会社の技術力向上を目的に毎年開催しています。



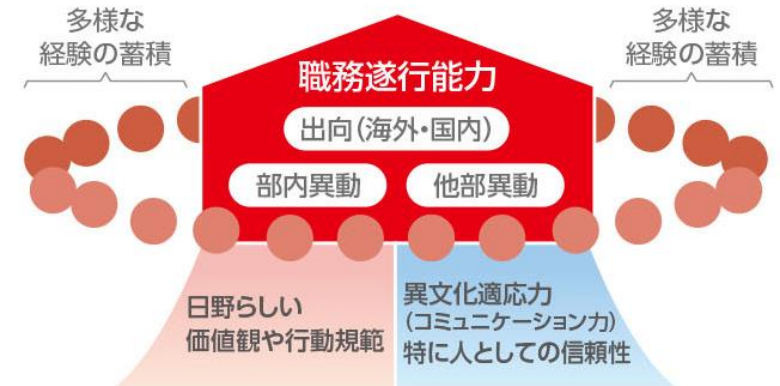
スタッフ小集団活動/
MAST*活動パネル展示会

チーム力を高める小集団活動と職場マネジメントの質の向上を目指すMAST活動の事例を展示することで、活力ある組織づくりに役立てています。

*Management quality Advancement System developed by Toyota group=トヨタグループによる職場マネジメント改善システム

グローバル人材育成と組織的な能力向上のスピードアップ

世界中のお客様に商品・サービスを提供していくために、国を越えた相互交流を活発化し、グローバルに活躍できる人材を育成しています。また、「教え・教えられる職場環境」をつくることで、優秀な人材の持つ知識・ノウハウを幅広い層に広げ、組織的な能力向上のスピードアップを図っています。



階層別研修

それぞれの階層に期待される役割や能力、および日野らしさ(日野のDNA)を、集合研修や職場での実践を通じて習得していきます。



オール日野TQM*/
グローバル日野QC**大会

社員のほか社外や海外からも大会に参加して、改善活動の成果を発表し合い、日野グループ全体で役立っています。

*Total Quality Management=総合的品質管理

**Quality Control=品質管理



ICT*/海外トレーニー制度

グループ全体でグローバルに活躍できる人材を育成するため、海外から社員を招き入れる一方、日本から若手社員を海外へ派遣しています。

*Intra Company Transfer=企業内転勤

日野自動車の長期環境ビジョン「日野環境チャレンジ2050」

私たちが提供するトラック・バスは、部品や素材をつくる段階から車両製造、お客様による使用、そして廃棄までの製品ライフサイクル全般で環境に負荷を与えています。この環境負荷を低減し、豊かで住みよい世界と未来を次の世代につなぐため、日野グループのチャレンジ目標として2017年に「日野環境チャレンジ2050」を策定。2021年にはこのチャレンジにおける2030年までの中間マイルストーンも設定し、取り組みを一層加速しています。特にカーボンニュートラルの実現に向けて、ライフサイクル全体におけるCO₂を徹底的に削減すべく、各国政府・関連業界と連携し、お客様・社会起点の姿勢であらゆる方策を追求していきます。



日野グループが成し遂げるべき
6つのチャレンジ

社会貢献

日野は、「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」という会社の使命を果たすために事業活動を推進することが、そのまま社会貢献活動につながります。一方で、事業活動以外の社会貢献として、世界中のグループ会社とともに、輸送や移動を通じた災害復興への協力や車両の寄贈、義援金の寄付、文化的な地域行事への参加および支援、人づくりとして地元に着した教育への支援などを行っています。



水不足に悩むタイ北東部へ給水車を寄贈



マレーシアにて教育支援として訓練用車両とエンジンを寄贈



各拠点の周辺にて清掃活動を実施



管理職の有志による小学校への出前授業

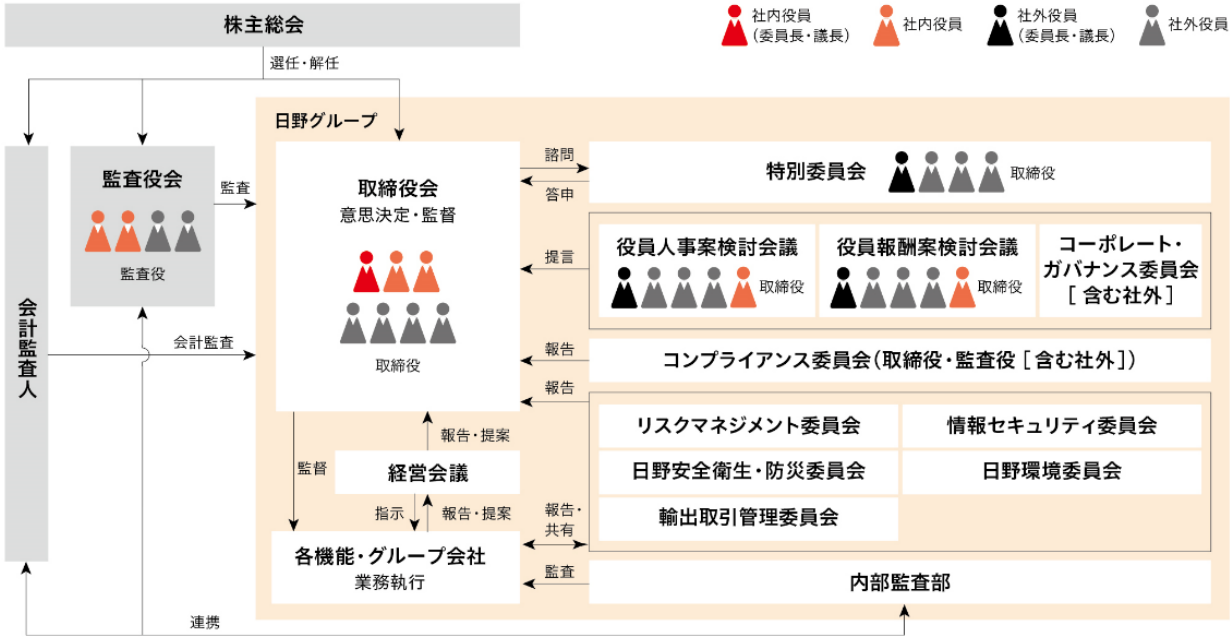


日野ラグビー部による子供たちへのラグビー教室

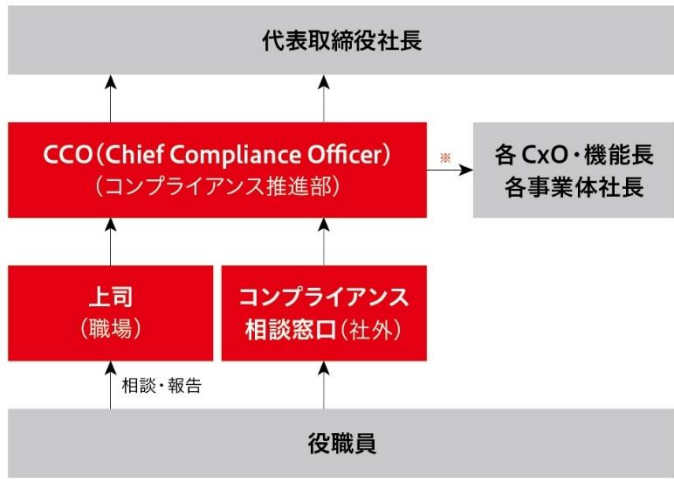
コーポレート・ガバナンス

当社グループは、一人ひとりが大切にすべき価値観とあるべき姿をまとめた企業理念「HINOウェイ」に基づき、全てのステークホルダーの皆様と良好な関係を築き、グローバル企業として持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るべく、経営の健全性、効率性、及び透明性を確保するための実効性のあるガバナンス体制を構築し、運用します。また、当社は「コーポレートガバナンス・コード」に賛同し、その理念や原則の趣旨・精神等を踏まえた様々な施策を講じて、コーポレート・ガバナンスの強化に努めていくことを基本方針としております。

■コーポレート・ガバナンス体制



■内部通報制度等における相談・報告の流れ



※ ただし、相談者の匿名性を十分に配慮したうえで各 CxO・機能長、各事業体社長に共有

日野自動車について



会社概要

会社名	日野自動車株式会社
本社所在地	東京都日野市日野台3丁目1番地1
創業	1910年(明治43年)8月1日
設立	1942年(昭和17年)5月1日
資本金	72,717百万円
発行済株式数	574,580,850株
代表者	代表取締役社長 CEO 小木曾 聡
従業員数	33,314人*
製品	トラック・バス、小型商用車・乗用車(トヨタ自動車(株)よりの受託車)、各種エンジン、補給部品等
売上高	1,516,255百万円**
営業利益	△8,103百万円**
経常利益	△9,233百万円**
当期純利益	17,087百万円**

*2024年3月31日時点(連結) **2024年3月期(連結)

主な国内拠点



新田工場

生産品目 大・中・小型エンジン
大・中型トランスミッション
大・中・小型デフ
中・小型アクスル



羽村工場

生産品目 小型トラック
トヨタ向け車両

北海道芽室テストコース

茨城テストコース

古河工場

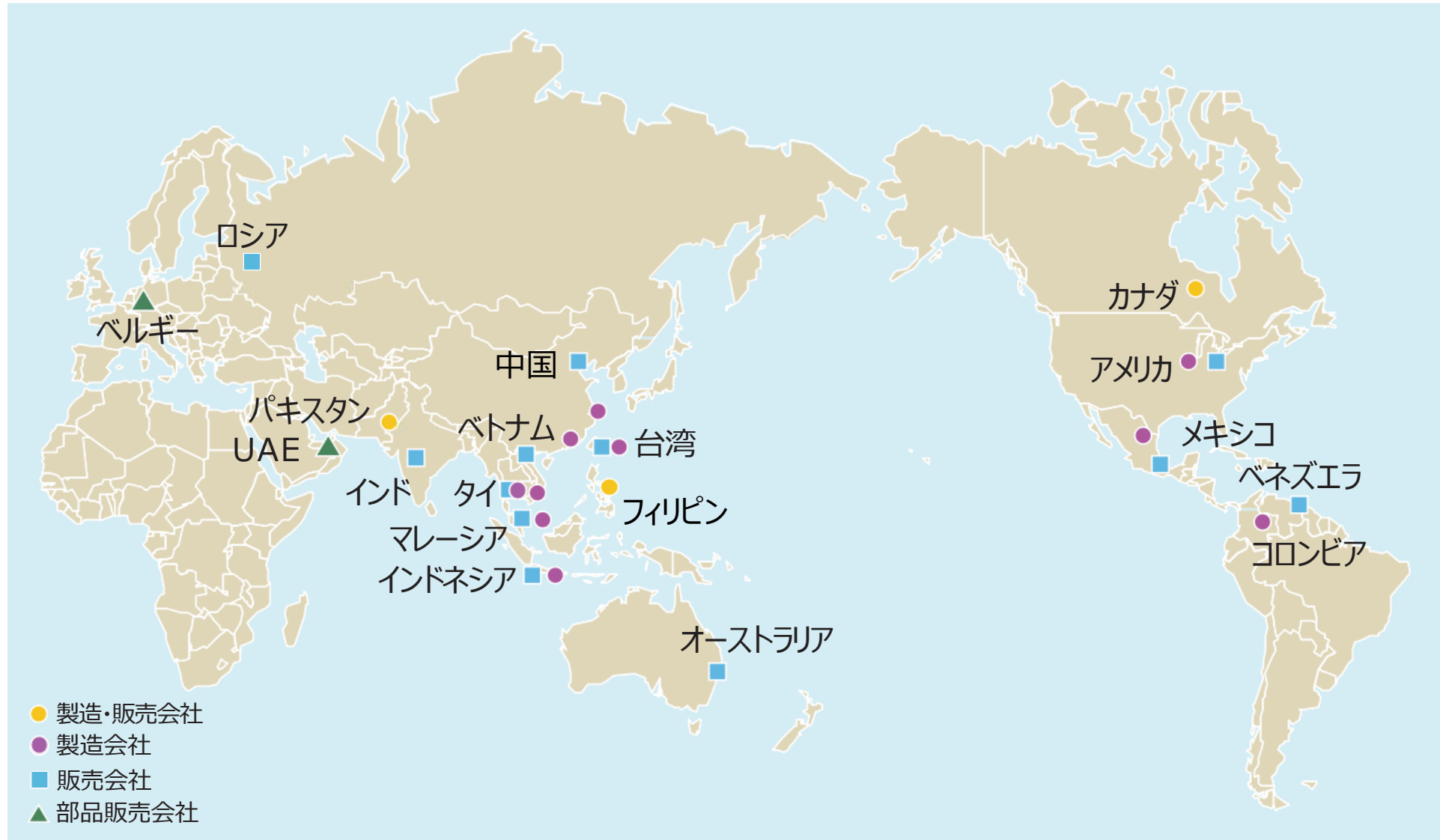
生産品目 大中型トラック
大型アクスル



本社・日野工場



海外事業体(投資会社)



2024年9月現在

主要製品



日野デュトロ

小型トラック



日野レンジャー

中型トラック



日野プロフィア

大型トラック



日野ポンチョ

小型路線バス



日野メルファ

中型観光バス



日野セレガ

大型観光バス

沿革(1910~1999)

会社の出来事

1910

東京瓦斯工業(株)
設立

1942

日野重工業(株)
として分社・設立

1959

日野自動車工業(株)
と改称

1962

タイに海外初の
販売会社を設立

1964

初の海外製造
会社をタイに設立

1991

ダカールラリーに
初参戦し完走

1994

新シンボル
マーク制定



1999

日野自動車工業(株)と
日野自動車販売(株)が合併し、
日野自動車(株)と改称

商品に関する出来事

1918

国内初の純国産
トラックの生産開始



1950

単車型の
大型トラック(TH)・
バスを発売

1953

「ルノー」との技術提携
乗用車生産を開始



1991

世界初のディーゼル・電気
ハイブリッドバスを発売



1999

トヨタ自動車(株)との共同開発による
新小型トラック「日野デュトロ」を製造・発売



沿革(2000～)

2001

第三者割当増資により
「トヨタ自動車株式会社」の
子会社化

2007

海外販売台数が
国内販売台数を
初めて上回る

2009

トラック・バス
生産台数、累計
300万台達成

2012

古河工場(茨城県)の
ノックダウン工場稼働開始

2013

ハイブリッドトラック・
バスの販売台数、累計
1万台突破



2017

古河工場の
本格稼働開始

2018

新しい物流のかたちを提案する
「NEXT Logistics Japan
株式会社」を設立



2020

インドネシアでの
生産台数、累計
50万台突破

2022

エンジンの排出ガスおよび
燃費に関する認証申請における
不正行為を公表

2023

「三菱ふそうトラック・バス
株式会社」との経営統合に
関する基本合意書を締結



2004

北米専用車
「HINO600シリーズ」
を発売



2012

「日野ポンチョ EV」
営業運行開始

2015

モジュール化新商品を
インドネシア、
タイに導入



2017

「日野プロフィア」が
グッドデザイン金賞
を受賞

2018

世界初EDSS※搭載の
大型観光バス
「日野セレガ」を発売

2019

国産初の連節バス
「日野ブルーリボン
ハイブリッド 連節バス」を発売



大型ハイブリッドトラック
「日野プロフィア
ハイブリッド」を発売



2022

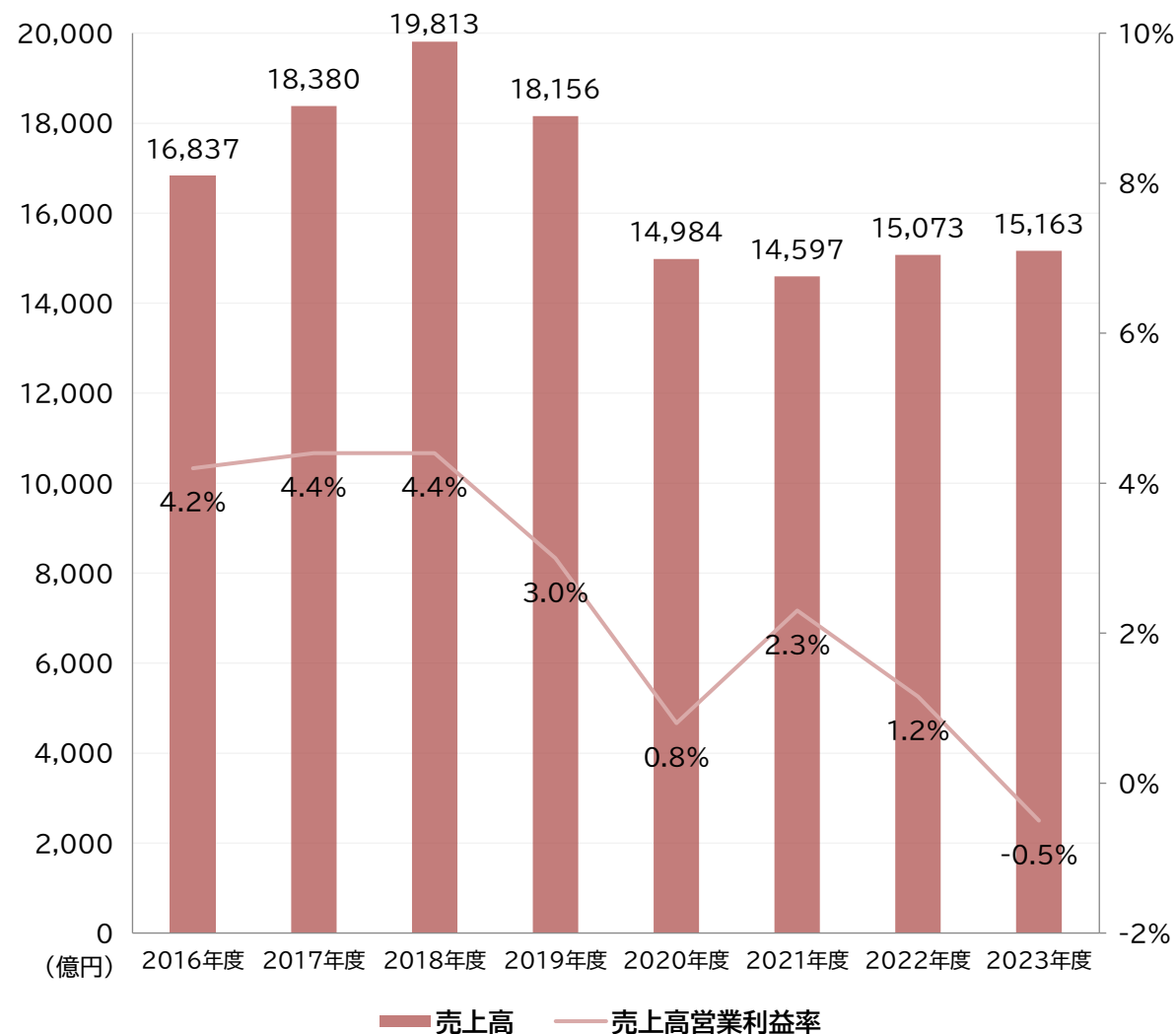
小型BEVトラック
「日野デュトロ Z EV」を発売



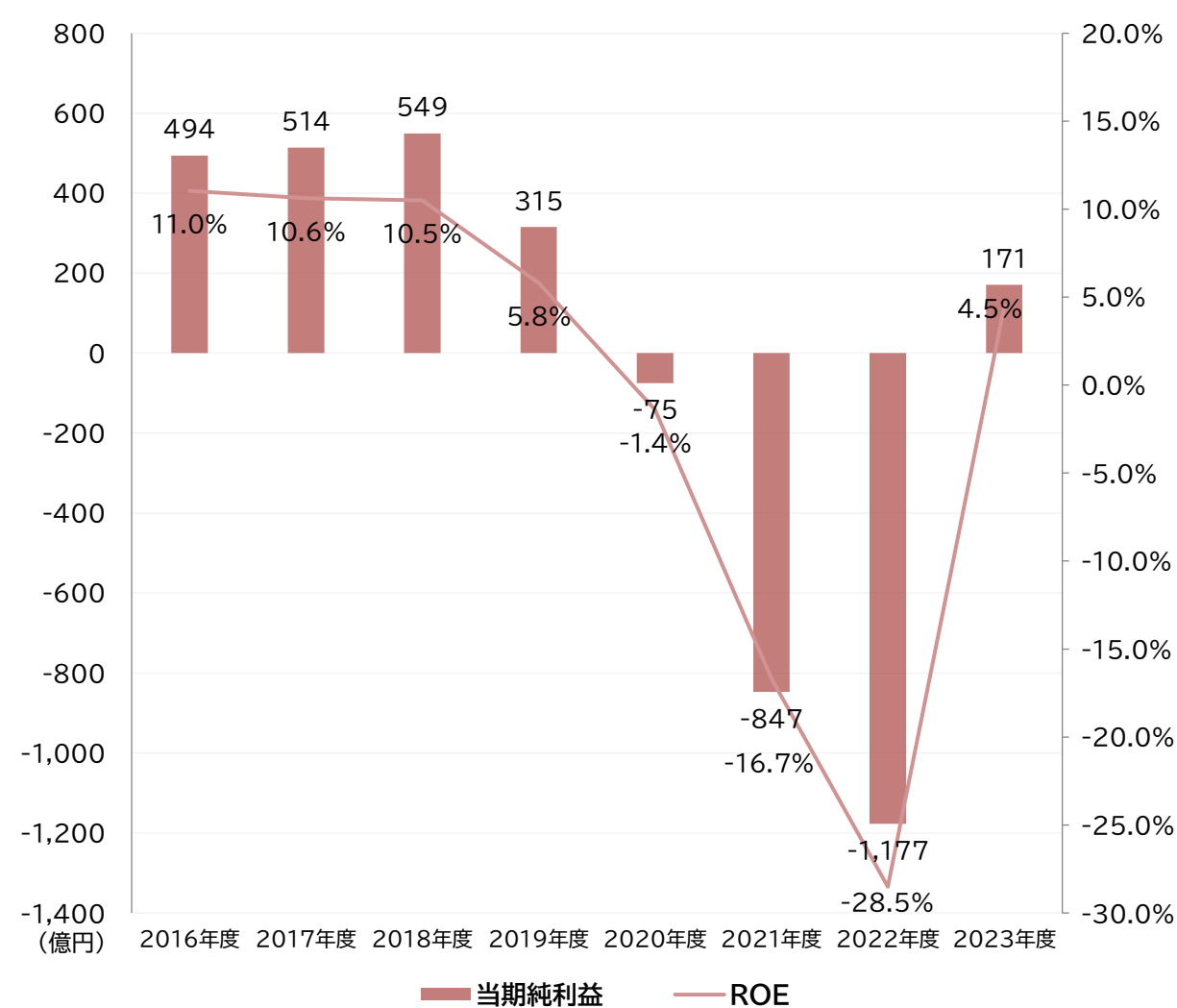
※ドライバー異常時対応システム(Emergency Driving Stop System)

会社業績

● 売上高・営業利益

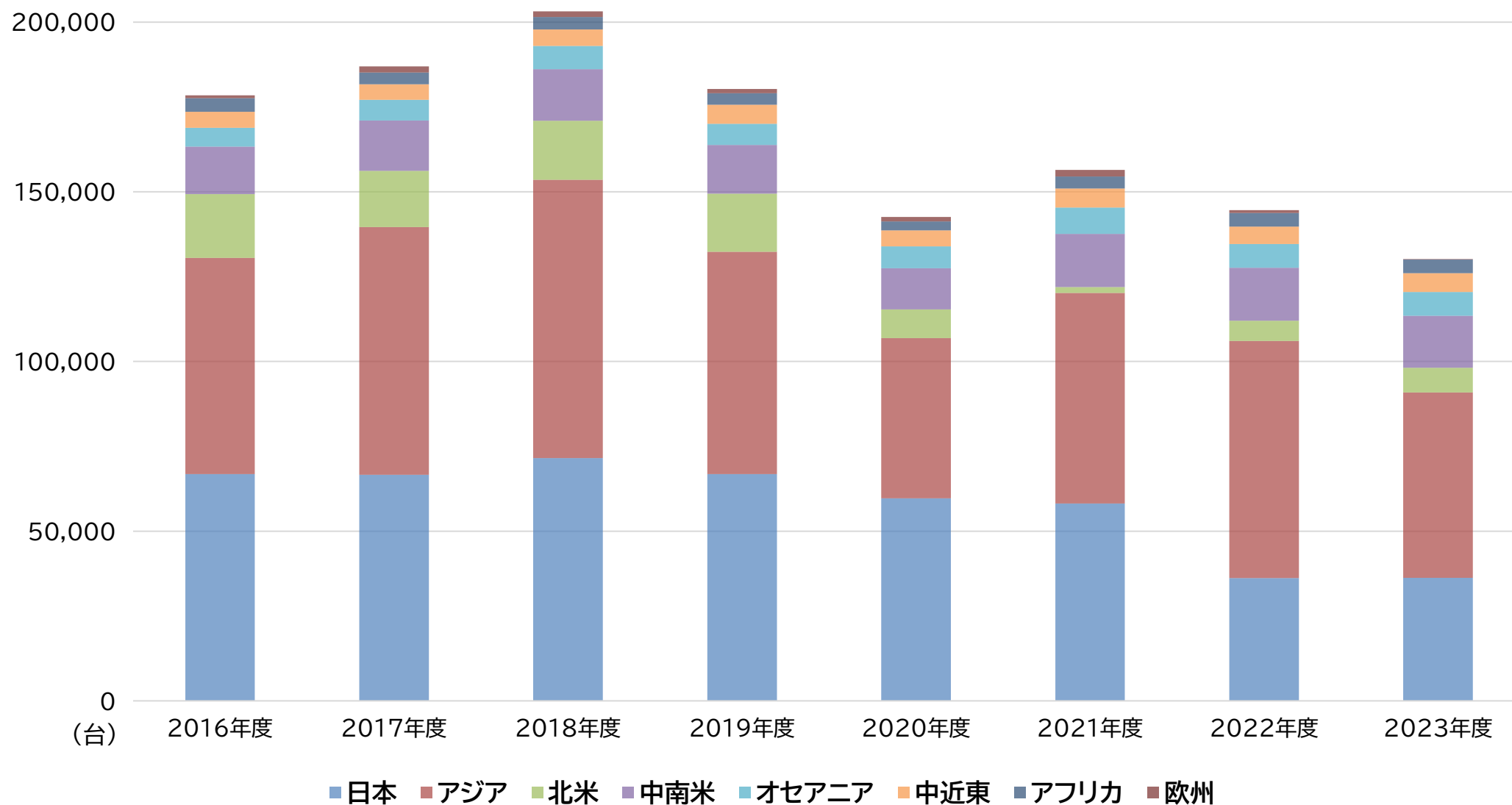


● 当期純利益・ROE

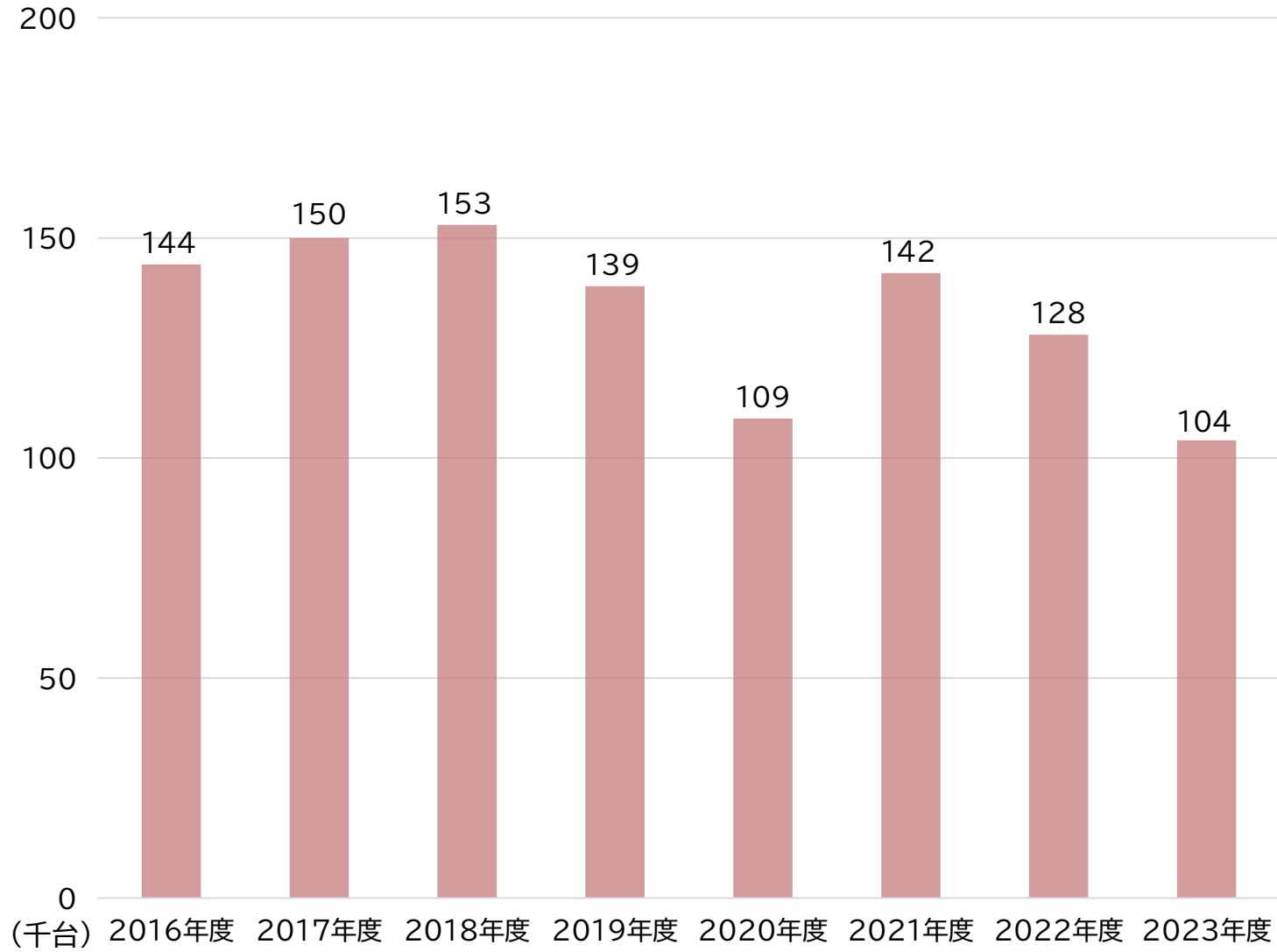


(注)2021年度から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用

HINOブランド車 グローバル販売台数



トヨタ向け車両生産台数



● 受託生産車



ランドクルーザー”250”

● OEM供給車



ダイナ



人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する



コンプライアンスを徹底し、
誠実に行動します



安全・環境にこだわり、
未来の社会を支えます
品質・プロフェッショナルにこだわり、
お客様の事業を支えます



互いを尊重し、
安全安心な職場をつくれます

日野自動車株式会社

〒191-8660 東京都日野市日野台3丁目1番地1

電話 0570-095-111

<https://www.hino.co.jp/>

